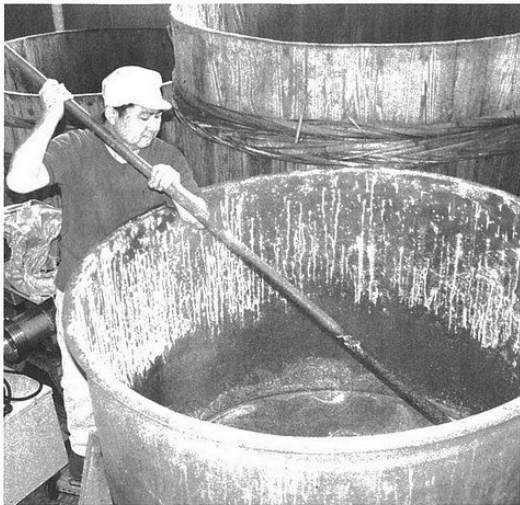


# わがまちホームページ

## あおしま 宮崎市青島地区

### 伝統の味130年以上守る

#### 長友味噌醤油醸造元 海外で販売も



長友味噌醤油醸造元を切り盛りする塩見さん

蔵で味見をさせてもらおう。口で、得意先から「やっぱりと、口の中でコクのある甘み、このしょうゆが一番おいしい」と言われるのが最高の喜びだ。醸造元が130年以上守り続ける手作りの味だ。

県内でも手作りにこだわりの味。同社を切り盛りする塩見裕一郎さん(44)は、4年前に先代が亡くなったのを機に外資

系金融機関を辞め、妻の陽子さん(46)の実家を引き継いだ。伝統の味を守る傍ら、海外勤務経験を生かして国内外への売り込みに奔走している。2010年からは赴任経験のあるシンガポールを度々訪ね、3年連続で毎年約1トを完売している。



### 青島神社の宮司 地域振興に尽力

その後、地域の会合などに参加する。最近では、26日に開催予定のイベント「みんなの未来へつなごう青島1300人のわ」の打ち合わせに駆け回っている。

青島神社の長友安隆さん(36)は写真1は宮司に就任して8年目。観光名所でもある青島神社としての地域貢献のため、青島商工振興会や「青島再勢プロジェクト」など約20の団体に所属し、代表や理事を務める。

外周1・5キロの青島を1300人の参加者が手をつないで囲み、人と人のつながりを再認識する催し。神事や浜辺の清掃も行われ、古事記編さん1300周年の記念イベントを兼ねている。長友さんは「子供の頃、にぎわっていた青島の姿をもう一度見たい」と集客に知恵を絞っている。



宮崎市青島地区

宮崎市青島地区 宮崎市中心部から国道220号を南下し、車で約30分。亜熱帯植物園や遊園地「こどもく」に、海水浴場、温泉地などがある県内有数の観光エリア。1951年に青島村が宮崎市に編入された。

### 海の面白さや安全学ぼう

#### 渚の交番 子供に人工呼吸法



ボードの使い方を学ぶ子供たち。浜辺で行われたライフセービングプログラム(いずれも渚の交番提供)

宮崎ライフセービングクラブは7月27日、青島海水浴場で運営する施設「渚の交番」で、子供たちに人工呼吸法などを教える「ジュニアライフセービングプログラム」を開催した。

地方の小学生28人が参加。子供たちはスタッフの指導を受けて人工呼吸の手順を学んだり、ボディボードの使用方を教わったりした。また、砂浜に立てた旗を取り合うビーチフラッグスなどのゲームを楽しみ、海の面白さや安全に遊ぶ知識を身につけた。

ジュニアライフセービングプログラムは、同クラブ理事の藤田和さん(36)らが「青島の海を守る若い人を育てたい」と8年前に始めた。今夏は1年目に学んだ子が

高校生になり、渚の交番でライフセーバーのアルバイトとして参加している。宮崎第一高1年浜田海成さん(15)(宮崎市神宮)は「小さい頃からお世話になった海に恩返しをしたかった」と話す。

午前7時から海水浴場でみかひや遊泳者の監視にあたる。アルバイトを始めて約1か月半。ほぼ毎日通い続け、全身真っ黒に日焼けした。「ライフセーバーの資格を取って、将来は渚の交番で働

### 一家で営む 民宿「美波」



宿泊客と記念撮影をする首藤さん親子(左から圭介さん、広子さん、修一さん)

JR青島駅近くの民宿「美波」は1980年の開業。首藤修一さん(64)と妻の広子さん(64)、次男の圭介さん(32)が営んでいる。開業間もなくは宿泊客が多かった。90年代以降、客足は遠のき始めた。近くの民宿や旅館が相次いで看板を下ろす中、首藤さん一家は遠方の常連客に支えられて経営を続けている。

圭介さんは民宿の仕事を手伝いながら、地元祭りのイベントに積極的に参加し、街の活性化に取り組んでいる。「地域が盛り上がり、外から来てくれる人も増えるはず。青島を観光客でいっぱいにしたい」と願っている。

き、青島海水浴場の安全を守りたいです」と笑顔で語る浜田さん。後継者を育てようとする藤田さんらの活動は、少しずつだが実を結んでいる。



鬼の洗濯板の潮たまり

このページに掲載した写真(提供写真は除く)を写真でお分けします。問い合わせは092-7155055か、最寄りの販売店へ。

### 次回は高鍋町

### 鬼の洗濯板は 絶好の遊び場

青島神社の南側に広がる鬼の洗濯板。浸食でくぼんだ岩場は干潮時、大小の潮だまりとなり、まるで天然のプールのようだ。深さも大きさも様々で、地元の子供たちは泳いだり、ウニや貝を取ったりして遊ぶ。

近くの男性は「たまった海水は温かくなって心地良い。息子の絶好の遊び場」と目を細める。